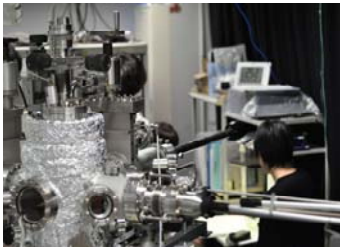


私とふるさと

こんにちは、米山記念奨学生の王涛(オウトウ)です。今日、私は「私とふるさと」をタイトルとして発表させていただきます。

まず、自己紹介させていただきます。私は2012年に来日して、日本語学校と専門学校に通って、2015年に和歌山大学システム工学部に入学しました。今年、大学院に進学しました。来日して今年で8年目になりました。卒業後、日本のものづくり企業に就職することを目指しています。

現在、私は半導体光学デバイスの作製を勉強し、研究しています。近年、新たな医療機器としてOCT(光干渉断層計)が注目されています。OCTは、人体に傷害を及ぼすこと



のない近赤外線を用い、生体の表面や内部構造を画像化する技術です。CTやMRIより、人体の断面画像を高

解像度で撮影できます。また、装置がコンパクトのため、装置の製作や検査にかかるコストも安価で、短時間で簡便に検査できます。OCTの性能を向上させるためには、OCTの光源が重要です。私は、量子ドットという半導体結晶を作製し、それを光源としてOCTに応用することを目指しています。

次に、私の故郷について紹介します。私の故郷は湖北省(こほくしょう)の西北、西安市の南から250kmに位置する十堰市(じゅうえんし)鄭西県(うんせいけん)です。鄭西県の面積は3509km²、ほぼ山地です。約50万の人口のうち、農業人口が約43万人、総人口の86%を占めています。近年、私の故郷を含めて、中国



の農村の人口がどんどん減少しています。若者が都会に出稼ぎに行き、

農村に留守児童(両親が出稼ぎに行き、家に残された学齢期の子供)と高齢者が残され

ています。そのため、高齢者が増加し、農業に携わる人も少なくなっています。この現状を改善するためには、数種類の作物に絞って作っています。ウコン、アブラギリとたばこの葉の生産量は中国の一位です。第一産業以外に、経済を活性化させるため観光立県を目指しています。インフラを整えて、山、川と歴史ある建物など自然と文化資源を活かして外部の観光客を誘致しています。

私にはこの故郷が以外に、第二の故郷もあります。それは和歌山です。3年前に和歌山に来てから株式会社オークワの社員寮に入居させていただきました。安い賃料で御飯もついていましたので、アルバイトの時間が減り、勉強に集中できました。また、和歌山で留学生を支援しているNPO法人WINコンコードのおかげで、たくさんの活動を体験し、日本の文化や日本の社会など学校で学べないことを勉強しました。紀ノ川の



清掃活動、留学生の卒業記念アルバムの作製やライラセミナーなど和歌山西ロータリークラブの社会奉仕活動を通して奉仕という精神を少し理解しました。和歌山で私は優しくされているから、これからは人にも優しくしてあげたいとおもいます。

最後に、今までの人生を振り返ると、あることが分かってきました。人間が強くなる理由は、大切な人が笑顔で支えてくれるからです。第一故郷の家族たち、第二故郷で出会った方々、心から感謝いたします。と共に、これからもどうぞよろしく願い申し上げます。